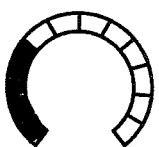
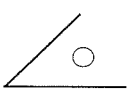

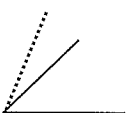

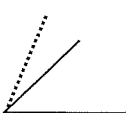

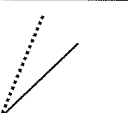
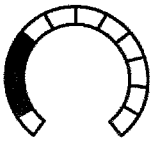

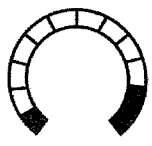
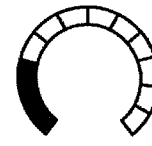
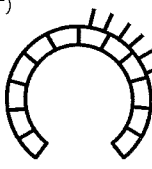
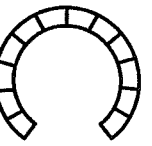
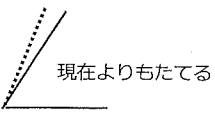
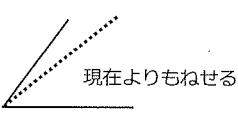
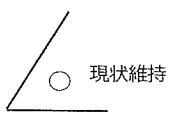


第72回全国装蹄競技大会 装蹄判断模範解答

肢別	前肢				後肢									
肢勢	前望	外向肢勢				後望	外向肢勢							
	側望	後踏肢勢 (集合)				側望	前踏肢勢							
蹄形	左	外向蹄		不同蹄		左	外向蹄							
	右	外向蹄		角度 右<左 大きさ 右>左		右	外向蹄							
歩様	外弧歩様		先着部位	左	外蹄側～踵		外弧歩様		先着部位	左	外蹄側			
			右	外蹄側～踵		右			外蹄側					
疾病損徴	左	内側管骨瘤、肘腫、球節（球腱）軟腫、負縁裂				左	飛端腫、飛節軟腫、球節（球腱）軟腫 管部外傷痕							
	右	内側管骨瘤、肘腫、球節（球腱）軟腫、負縁裂				右	飛端腫、飛節軟腫、球節（球腱）軟腫 内蹄球部外傷痕、管部腫脹（外側）							
多削部位	多削部位		蹄角度の適否				多削部位		蹄角度の適否					
	左	外			内			左	外			内		
	右	内			外			右	内			外		
装蹄の方針	<p>不同蹄に配慮して、左蹄の蹄角度は現状維持とし、右蹄は蹄尖部から外蹄側負面を多削し、蹄角度を起こす。左右蹄の球節（球腱）軟腫に留意して、外蹄側負面を多削して、内外バランスを整える。</p> <p>左右蹄の内側管骨瘤に留意し、内側過高に注意し空隙を設け緩衝処置行い予防に努める。</p> <p>左右蹄とも、肘腫に対し、除土面を設け、刺縁・刺尾の付設過剰に注意する。</p> <p>左蹄の負縁裂は、鑢を用いて裂部を滑らかにし、悪化予防に努める。</p>				<p>左右蹄いずれも、飛節軟腫、飛端腫、球節（球腱）軟腫、に留意し、内蹄尖から外蹄側負面を多削して蹄角度を起こすとともに、内外のバランスを整える。</p>									
	<p>① 多削部位は原則として下記の記載例に基づいて表現すること。（多削部位を塗りつぶす）</p>													
記載要領														
	一側多削		蹄尖多削		両蹄踵多削		一側蹄踵多削		蹄壁鑢削		現状維持			
	<p>② 蹄角度の適否は下記の記載例に基づいて表現すること。</p>				<p> 現在よりもたてる</p> <p> 現在よりもねせる</p> <p> 現状維持</p>									
<p>③ 「装蹄の方針」欄には、この馬の判断結果を総合して、重点事項を記載する。箇条書きを基本とする。</p>														